

りょうあい

両合棚田再生協議会



両合棚田の風景



棚田の一面を牛放牧に活用

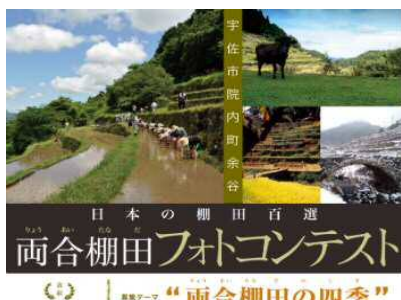
両合川の上流域、小平・滝貞集落に位置する両合棚田は、川の両岸の急傾斜に広がる約 7ha150 枚の石積み棚田である。平成 11 年に「日本棚田百選」に選定されたが、年々集落住民が減少し、獣害は増加、一時は集落全体の水稲作付面積が 30a にまで減少した。

このような状況に危機感を抱いていた集落に対し、宇佐市は、棚田を世界農業遺産「国東半島宇佐地域」のテーマ「クヌギ林とため池がつなぐ農林水産循環」のシンボリックなスポットと位置づけ支援を開始。地元も平成 27 年に「両合棚田を守る会」を立ち上げた。

翌年には、「両合棚田を守る会」に周辺 9 集落の地域活動組織「余谷 21 世紀委員会」、県市を加えた「両合棚田再生協議会」を発足し、田んぼの再生活動やフォトコンテストなど様々な交流事業で両合棚田の再生を進めている。



大分県宇佐市



第 3 回両合棚田フォトコンテストのポスター

【景観の保全】

集落の中心にある古い石橋、それを囲むように広がる水田、棚田放牧の緑と石垣が美しい棚田景観を形成している。

この景色を見に県内外から多くの棚田ファンが訪れることから、集落では、崩れた石垣は石を積んで修復し、獣害対策の柵は山林内に設置するなど景観の保全に努めている。

【土砂崩壊防止】

一度耕作放棄された田んぼを元に戻すには 3、4 年がかかる。現在、地道に復田作業、降雨で崩れた石垣の修復を進め、水稲作付面積を棚田全体の 3~4 割まで拡大する計画である。また、水の利便や作業性が悪い山際の棚田は芝を植え、牛を放牧する「棚田放牧」に活用している。

【地域社会の振興】

協議会では、棚田を APU(立命館アジア太平洋大学)の学生や地元小学生の体験フィールドとして提供。また棚田フォトコンテストなどの交流事業を開催し、地域振興につなげている。

両合棚田再生協議会の主なイベント



APU 学生の田植え体験、地域住民との交流会



地元小学生も参加・御田植祭